進捗状況報告シート
（2011年度・大学）

担当部局は　　☆印の箇所を記入してください。

Ⅰ．評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学研究科
大項目	4 教育研究組織 （研究科）
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
	(KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

Ⅱ．自己点検・評価（2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告）

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。
進捗評価はA～Dの４段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

A　：　目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
B　：　目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
C　：　目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
D　：　目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価 2009	2010	2011	2012	2013
1．アドバイザリー・パネル制度を改編する。	→2005年度末に制定されたアドバイザリー・パネルに関する内規の改善内容 （委員の人数、任期、資格、役割の明確化などの再検討内容）を行うための会議開催回数。	C	C			
2．~~学部~~研究科の使命・目的に照らして~~商学部の~~教育研究組織が妥当であるか否かに関して、継続的に検証する。	→妥当性の常時継続的検証のための会合開催回数。	C	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》　※　全小項目について記述が必要

小項目4.0.1	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
☆	（説明）　アドバイザリー・パネルは本学卒業の学外委員からなる組織であり、商学部・商学研究科の研究・教育に関して、多方面からの問題提起・助言、あるいは提案を頂戴するために設立されたものであるが、現状では一定の役割を終え、休止している。 　商学研究科の教育研究組織は、商学研究科の理念・目標を前提として、かつ社会からの要請をも鑑みて、学問原理や研究方法、対象、分野の近接性にもとづいて組織化されている。 　専門分野に関して言えば、経営、会計、マーケティング、ファイナンス、ビジネス情報、国際ビジネスの６分野からなる。学部・学科・研究科・専攻とも各教員が専門研究分野を一貫して担当しているため、学生のレベルに応じた教育を提供できるよう配慮されている。特に大学院では、学生の学習目的に応じて研究職コースと専門学識コースに分けられており、大学院生の要求と資質に応じた研究の場を与え、いずれのニーズにも合うよう教員が責任を持って少人数教育指導を施している。
小項目4.0.2	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
	（検証の有無）　いずれかにチェックしてください。　→→→→→→→→→→→→→→　◉ 検証している　○ 検証していない
	（説明）　教育研究組織の適切性に関しては、新任人事を行う際に、商学部の人事委員会ならびに学部執行部・大学院執行部が常に検討を行っているが、毎年定期的な検証という形で行ってはいない。
その他	

《評価指標データ》

博士研究員（ＰＤ）の受入状況
日本学術振興会特別研究員（ＤＣ、ＰＤ）の受入人数
研究誌発行状況
提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）
専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
21世紀ＣＯＥプログラムの採択状況
文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
特定プロジェクト研究センター制度の活用状況
国際学会でのｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰの延べ回数
☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項　※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価（1）》効果が上がっている事項　注）出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

	小項目4.0.1	
☆	小項目4.0.2	
	その他	

【次年度に向けた方策（1）】伸長させるための方策　注）出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

	小項目4.0.1	
☆	小項目4.0.2	
	その他	

◎改善すべき事項　※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価　（2）】改善すべき事項　注）出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

	小項目4.0.1	
☆	小項目4.0.2	
	その他	

《次年度に向けた方策（2）》改善方策　注）出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

	小項目4.0.1	
☆	小項目4.0.2	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆	その他（自由記述）	

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】
○アドバイザーパネル制度の改編、教育研究体制についての継続的な検証が、進められることが望まれます。

【学内委員】
○学部に関する記述と重なる部分が多く、目標２には「学部の使命。目的」、「商学部の教育研究組織」など、「学部」が残っています。
○小項目4.0.2の現状説明は教員の人事構成に限られた説明になっています。4.0.1の要素に含まれているような、より広い観点からの検証が望まれます。また、定期的な検証を行なっていないのであれば、それは「改善するべき事項」として記述することが望まれます。
○本項目では、要素などを参考にされ、より大きな観点で説明を加えていただければと思います。
○課題が示されていますので、大学基準協会の留意事項にもあるように、恒常的かつ適切に検証される体制を整備されることが望まれます。
○アドバイザリーパネルが組織の適切性についてアドバイスを行うためのものなら、小項目4.0.2での位置づけになりますし、アドバイザリーパネルそのものが商学部という教育研究組織として、理念・目的に照らして欠くことのできない重要なものであるのであれば、小項目4.0.1での位置づけになるのではないでしょうか。

【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】
○小項目4.0.1
　基盤評価：なし
　達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」
○小項目4.0.2
　基盤評価：なし
　達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

アドバイザリーパネルは実務家の観点から教育をサポートするものであり、マネジメントコース（いわゆる社会人大学院）を開設していた時のなごりである。マネジメントコースを閉鎖したことによる予算削減により、アドバイザリーパネル再開のめどはたっていない。現在は、アドバイザリーパネル以外の会社や実務家からの寄付講座を受けることで同様の効果を上げている。

《現状の説明》小項目4.0.2への追加記述
☆「・・・商学研究科の教員は、商学研究科単独で採用されるのではなく、学部の教員が兼任している。新任人事は学部での採用人事の際に商学研究科の理念･目的を実現するためにふさわしいかどうかも考慮して行っている。このため、現在の教員組織は、商学研究科の理念・目的を実現するためにふさわしいものとなっている。またカリキュラムについては、毎年、各分野において適切な開講科目と担当者を検討し、その結果を研究科委員会において審議、決定している。」

目標２の「学部」を「研究科」と修正します。